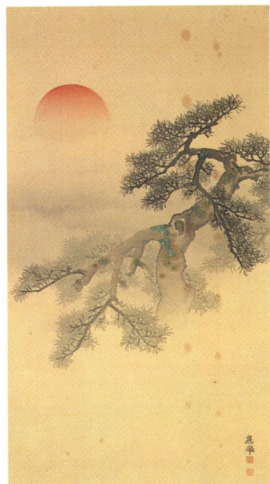




双鶴図



右幅(松に朝陽図)

右幅に「松に朝陽図」を伴って、新春を飾るために描かれた大型の掛幅である。二羽の番の鶴が波際に睦まじく集う。鶴もまた、応挙がよく描いたモチーフの一つで、制作依頼の多かった画題でもあったのであろう。

本図は、地に薄墨や藍を用いて、鶴を塗り残し、鶴は胡粉と墨の濃淡で描写を行っている。応挙も写生を重視した画師であるが、こうした作品は、写生をもとに消化されて、絵として描く鶴の型が出来上がった上で制作されており、あっさりとしている。No.14とは趣を全く異にし、様々な描写表現を巧みに使い分け、時に応じた作品を制作した応挙であった。本図には「安永己亥仲春写」の款記があり、安永八年、応挙四十七歳の作と知られる。伝来の詳細は不明であるが、江戸時代のうちに御所に伝わった作品と考えられる。

15 双鶴図 円山応挙 一幅(対幅のうち)

絹本着色 江戸時代、安永八年(一七七九)
本紙二六・四×七〇・〇

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花鳥―愛でる心、彩る技（若冲を中心に）

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 40

編集 宮内庁三の丸尚蔵館

制作 株式会社 東京美術

翻訳 横溝廣子

発行 宮内庁

平成十八年三月二十五日発行

©2006, The Museum of the Imperial Collections